

カシナガラ大釜ヲカクルコトハ、マヅハナキモノ也、常修院殿○慈胤法親王ノ御キライナリシコト也風爐ニハ小釜ヨシト仰家○近衛セラル

〔毛吹草三〕和泉 風爐立土器

〔茶道早合點下〕風爐の小板

大小あり、風爐の下にしく板なり、小は豎八寸五分、横八寸四分、厚さ四分半、大は豎九寸三分、横九寸二分、厚さ同前なり、丸板とて丸きもあり、漆は花塗なり、

〔和漢茶誌二〕局版 今俗云小板是也

以方版架風爐者也、珠光及引拙、珠德、宗悟、宗陳、紹鷗、未能定其大小尺度、至宗易以正焉、其法見圖書又曰、

近世何人作中版用之最佳、然而定其尺度、以為常製、豈其然哉、想不知其中故也、何者、大小有所定、謂之常也、中者不偏不倚、應物自宜之謂也、人多膠於一定之中、而不知變、故中版一定、而不合、矩圭則議之、蓋時有萬變、事有萬殊、物有萬類、不知中無定體故也、惜哉、

風爐小版者、以榦杉漆之全黑、昔削杉為之、古削杉造者、隨其質直塗之、今時有云起目、倣此、或以栗、或以白桐、皆漆之

員局 俗云團版是也

全書曰、以檜檀為之、

本國員版、以檜桐為之、皆位鐵爐耳、尤以漆塗、宗易以降、其形圓、徑高厚皆一版也、因今有中形之版、而稱昔日版、以為大也歟、

〔茶道筌蹄三〕風呂敷板

大板 一尺四寸四分、臺子の板巾を四角にせし寸法也、真塗は紹鷗好なり、當時利齋にて製するは、桐のカキ合せアラメなし、横へ長きは長板を半切にしたる也、アラメは好不知、一閑にて寫しを製す、